

連載 | 両立 WOMAN No.51

ウエディングプランナーの田原聡美さんは、本誌 2013 年 10 月号で表紙の花嫁として登場し、両立 WOMAN となって、今回は 2 度目の登場です。第一子の育休から第二子の出産と育休に突入し、3 年 10 カ月のブランクを経て、今年 4 月に職場復帰したばかり。「会社のバックアップがあったから、こうした休み方ができました」と言う笑顔の後ろには、やっぱりいろいろな悩みがあったはず！ それだけ長く職場を離れていて不安はなかったのか、復帰に向けてどんな準備をしたのかなど、さまざまな質問にお答えいただきました。



(株)ブライダルプロデュース ザ コンチネンタル横浜
ウエディングプランナー 田原 聡美さん

「仕事をしたい」。でも今は、「子どもとの時間を楽しもう」と考えた

◎田原さんは職場結婚だそうですが、御社では職場結婚は多いのですか？ おふたりはどんなふうに出会ったのですか？

そうですね、職場結婚は多いですね。みんな、結婚後もそのまま夫婦共働きで勤め続けている人がほとんどです。

実は夫は私が就職活動をしている時に、面接に来た私に扉を開けてくれた先輩社員だったんです。当時、夫は一年先に入社が決まった内定者だったのですが、とてもキラキラして見えて、「こういうふうに働ける会社に入りたいな」と思ったので、よく覚えていました。入社後に付き合い始めて、3 年目にプロポーズ、4 年目に結婚しました。結婚相手はこの人だろうとお互いに思っていましたし、社内結婚をしている人も多くて、当然仕事も続けますから、特に結婚に際して迷う要素はありませんでした。

長男の出産は結婚から 2 年後です。出産の 2 カ月前から産休をいただいて、もともとは 1 年での復帰を希望していたのですが、保育園に入れず、育休を延長している間に次男の妊娠が分かって。会社に相談したところ、長男の育休が終わり、次男の産休に入るまで 2 カ月しかなかったので、有休を使ってそこはつなげてしまった方がよいだろうということになり、今年の 4 月に復帰するまで、3 年と 10 カ月の長い産休 & 育休になりました。

休んでいる間、仕事のことが気にならなかったというのは言い過ぎですが、一年を過ぎたときに「ブランクができるのは仕方がない」と

と、自然に覚悟が決まりました。それに、まったく会社から離れていたわけではなくて、半年に一度面談があり、子連れで会社に来てもいいし、それが難しい場合は上司が近所まで来てくれるなど、臨機応変に行なってくださって。その際、いつも会社側は「戻ってくることを前提に」話してくれるので、とても安心感がありました。

子どもがパパ大好きになったことが復帰後すごく助かっている

◎それだけ長い時間、お子さんと過ごせるというのも、希有なケースではないかと思いますが、復帰に向けて育休中に準備していたことはありますか？

準備と意識したわけではないのですが、振り返ってみるととてもよかったのは、子どもが「パパ大好き」になっていたことです。当然ですが、育休中は子どもと過ごす時間は夫より私の方が圧倒的に長くなります。でもわが家の場合、育休中から子どもの食事やお風呂、寝かしつけなどを夫が自発的に協力してくれたので、夫はもちろん子どもも「パパとやる」に慣れてくれて。育休中は特に「夫は毎日仕事に行っているのだから」と、休日に夫に子どもの世話をしてもらうのは気が引けると思ってしまいがちです。それだといざ育休が明けて夫が子育てを分担しようとしても、子どもが「パパじゃイヤだ〜！」と泣いたりして、結果的に夫を大変な目に遭わせてしまうと思います。子どもがパパ大好きだと、夫が休みの日に私が一人で外出しても、夫も子どもも全然困ら

田原 聡美 Satomi TAHARA | 年齢 33 歳 夫 34 歳 長男 4 歳 次男 2 歳 大学卒業後、2008 年(株)ブライダルプロデュースに入社。ウエディングプランナーとしてザコンチネンタル横浜に配属される。1 歳年上の夫と 27 歳で社内結婚。2 年後に長男、さらに 2 年後に次男を出産し、3 年 10 カ月の産前休暇と育児休暇を経て、18 年 4 月より復帰。次男の小学校入学までは時短勤務で、休暇前と同じくウエディングプランナーとして現場に出る。

いで済んでいるので、これから育休を取る方には早めの“パパ慣れ”はお勧めですね。

それから子どもに関わる作業は、夫に“見える化”しておくことも大事です。例えば保育園に持っていくものがどこにあるのか、準備は何をすればいいのかなどは、紙に書き出してクローゼットに貼ってあります。もちろん私がやってほしいようにすべて完璧にやってくれなくても、食器の消毒のように衛生に関わるようなことでなければ、彼のやり方でいいと割り切る。「思ったようにやってくれない」というのは、きっとお互いさまだと思うので、そこはこだわりません。

同業者同士の夫婦だからお互いの状況が分かりあえる

◎現在、田原さんは時短で職場復帰なさっているそうですが、ポジションは産休前と同じですか？

はい。産休前よりも担当件数を減らして、16 時退社の時短勤務でウエディングプランナーを続けています。弊社では、私のような時短勤務の人だけでなく、休暇中や退社した後など担当者が不在の時に、他の人が誰でもすぐお客さまに対応できるような体制になっ



ているので、特に問題なく毎日 16 時に退社でき、とてもありがたいです。

子どもは突然熱を出したりして、急に休まなければならないことがしょっちゅうあります。そういうとき、周囲に申し訳なくて、心苦しくて、落ち込んだりしていたのですが、上司から「出社できるときに頑張ろうよ」とアドバイスされて、気持ちを切り替えることができました。

子どもの具合が悪いとき、夫と私、二人共同じ会社にいるとどちらが休むかとなると、やはり職務上替わってもらいにくい支配人職の夫が出勤し、私が休むことになります。同業者なので、そのポジションのことが分かるから、「仕方がない」と頭では理解できます。でも心のどこかで「私は会社に必要とされているの？」と、不安になる気持ちがたまに起こるのも事実です。とはいえ子育ての中で、こうしたことは避けて通れません。どうしようもないことはどうしようもない、割り切って休む。その分、出社した日にはバックアップしてくれる会社に、全力で貢献する。こうした葛藤も、子育てや共働きにはつきものだと思います。

育児をしながら働きやすい環境を会社が作ってくれた

◎ウエディングプランナーは日曜、祝日の預け先がなくて困るというお話をよく聞きますが？

そこは弊社のとてもよいところだと思うのですが、日曜・祝日は会社に併設されている託児所が利用できるのです、日曜出勤の際も困

一日のスケジュール

6:30	起床。自身の身支度・朝食お弁当づくりを終えてから子どもを起こす
7:15	家族そろって朝食
8:15	出社(家を出る)。主人が保育園へお見送り
10:00 ~ 16:00	業務時間
17:45	保育園お迎え。保育園近くにある公園で子どもたちと遊んでから帰宅
18:30	帰宅後すぐにお風呂
19:15	夕食
20:30	寝かしつけ
21:30	部屋の片付けや翌日の夕食やお弁当の仕込み。家事が落ち着いたら TV を見ながら主人の帰りを待つ。主人帰宅後は休日の予定を立てたり、仕事の話を共有したりする時間に
23:30	就寝



仕事の予定は手帳、プライベートの予定はスマホで管理

田原さんへの7つの Question

Q1. お子さんの年齢と就学状況を教えてください。

長男 4歳（保育園） 次男 2歳（保育園）

Q2. 育児・家事のサポートは誰に？

主人です。「サポート」というスタンスではなく「ふたりでやるのが当たり前」というスタンスでいてくれる主人の存在は、本当にありがたいです。

Q3. 家事のスタイルは？

食事のみ休日にまとめて派です。具体的には、副菜を休日に作り置きしています。家事は料理作り・お弁当作りは私が担当。それ以外のことは子育て含めてすべて、夫婦で「無理せず」「できる方がやる」スタンスで分担しています。

Q4. 息抜きの時間は？

日曜日の仕事帰り、会社の保育室へ子どもを迎えに行き、そのまま子どもを連れてファミレスへ。職場ママ友と過ごす夕食時間がいい息抜きになっています。ママ同士だからこそ分かり合える仕事のやりがいや悩みについて共有できる大切な時間です。

Q5. 家族とのコミュニケーションを深めるコツは？

朝の時間を大切にしています。主人は帰りが遅く、子どもたちが寝た後に帰宅するので、朝が家族で過ごせる貴重な時間。子どもがいる時間は、基本的にテレビはつけていないので、自然と会話が弾むとても楽しい時間です。

Q6. 職場までの距離は？

現在の住まいは職場まで電車で約一時間ほどかかるので、近いとは言えません。でもその電車の時間が、とてもリラックスできる貴重な時間になっています。子どもを産んだからは「電車に一人乗る」こと自体がぜいたくな時間と感じるようになりました。この時間は好きな音楽を聴いたり、読書をしたり、自分のためだけに使える時間として満喫しています。

Q7. スバリ、家庭と仕事を両立させる秘訣は？

「頑張り過ぎない」ことだと思います。もちろん仕事は全力で取り組んでいるので、「頑張っていない」というのは言葉がありますが、子どもの病気などで急遽、それも数日にわたってお休みをいただくこともあります。「申し訳ない」「情けない」という気持ちが大きくて、当初はそのたびに悩んでいましたが、理解ある上司や周囲のみんなのおかげで、「そういうときは仕方がない。だから働けるときに全力で」という気持ちに切り替えてから、少し肩の荷が軽くなりました。また家庭でも「育児休業中と同じように」という気持ちをなくし、料理の品数などにこだわり過ぎないなど、いい意味で手を抜くことも覚えました。



出勤前に少し早めに家を出て、会社近くのカフェで過ごすのが楽しみな時間

らないんです。2年くらい前に、社員がキャリアを諦めることなく子育てしやすい環境を整えるために開設されたのですが、お昼の給食とおやつが出て、8時から19時まで預かってくれますから、日曜・祝日はフルに働けます。当初は最大12名まで預かれるスペースだったのですが、今後もっとワーママが増えることを想定して、さらにスペースを拡張して、今は20名以上預かれる規模になりました。設備も整っているし、保育士さんもいい人たちで、安心して子どもを預けられます。

弊社は月曜日が定休日なので、この日曜の出勤は社内のワーママの楽しみの日でもあります。というのは、日曜日ですだからたいい結婚式で、担当していたお客さまの式が終わって大いに安心した後、子どもたちを社内の託児所から引き取ったら、そのままみんなでファミレスに行って、夕食を取りながらおしゃべりするんです。翌日が休みなので、みんなリラックスして、仕事のこと、育児のこと、なんでもいろいろ話します。こうした時間があると、また仕事を頑張ろう！という気力が湧いてきます。

弊社は最初にお話したように社内結婚が多く、結婚や育児で社員が退職せずに気持ちよく働き続けられるためにも、社員の家族をすごく大事にしてくれます。家族感謝祭というイベントでは、社員が家族をそれぞれの職場に招待し、職場見学を兼ねて料理などを楽しんでもらうパーティーも。うちの子どもたちも遊びに来て、みんなにかわいがってもらって、すごく楽しかったみたいです。

子育てをしながら働く上で、私はこの会社にいたことで、とても恵まれた環境を与えられていると感じます。あとは夫が「手伝う」ではなく、当事者という意識で子育てを担ってくれていることも大きい

です。とはいえ、やはりちょこちょこした不満はお互いに出てきますから、ため込まないでちょこちょこ言う、こうしてほしいと言うことがあるなら「察してよ」ではなく言葉で説明するように心掛けています。

あとは自分と同じやり方でなくても認めることでしょうか。子育てのシェアも、仕事と同じで「指示は正確に分かりやすく」「任せられるところは任せる」そして「やってもらったことに感謝する」ですね。

